

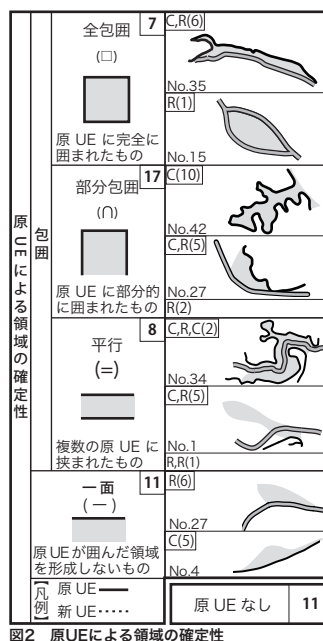
シティ・アイランドからみる東京の都市空間の領域的性格

奥山研究室 16B12343 番場 崇 (BAMBA, Takashi)

1. 序 東京は起伏に富んだ地形の上に鉄道や高速道路などのインフラストラクチャーが高密度に敷設された都市である。そのため崖線などの原地形に規定された領域にインフラストラクチャーが立体的に交錯することで生まれた囲まれ方が錯綜した領域による複雑な都市空間が形成されている。本研究では上記の領域をシティ・アイランド^{注1)} (以下 CI) と定義し、CI を原地形による領域の確定性とインフラストラクチャーの関与の形式、CI 内部の領域の性格を検討することで、東京の都市空間の領域的性格を明らかにすることを目的とする。

2. 原 UE による領域の確定性

図1の例では、崖線と河川に挟まれた領域に高架線路と高架道路が交錯することで、囲まれた領域が形成されている。そのように領域を規定する原地形とインフラストラクチャーをアーバン・エッジ^{注2)} (以下 UE) と定義した(図2)。UE のうち、崖線や河川を原 UE、線路や高架道路などの交通インフラと明治以降につくられた河川(以下新河川)を新 UE と定義した。その上で地図情報を基にしたフィールドワークを実施し、54 の CI を得た。次に CI における原 UE について、その領域の確定性から、[全包围][部分包围][平行][一面]、また原 UE が存在しない[なし]で捉えた(図3)。



3. CI における新 UE と単位領域

3-1. 新 UE の関与の形式 原 UE による領域の確定性が比較的高い CI には、原 UE による領域に新 UE が関与することで原 UE による領域から広がっていくように CI が形成されたものがみられた。そこで原 UE による領域の確定性が[全包围][部分包围][平行]のものを対象に、原 UE による領域を分割するようにして領域を形成する〈分割〉と原 UE による領域を分割するのに加えて原 UE を越えて領域を形成する〈拡張〉として捉えられた(図3)。

3-2. 新 UE による領域 新 UE のみによって囲まれた部分をもつ CI がみられた。その部分を新 UE 領域と定義し、原 UE との位置関係を整理した(図4)。新 UE 領域が原 UE による領域と重なり合うものや、原 UE による領域にさらに新 UE による領域が入れ子のように存在しているものがみられた。

3-3. 単位領域の数と利用状況 CI 内部に存在する最小単位の領域を単位領域と定義し、単位領域の数から検討したところ、単数のものが16事例、複数のものが38事例みられた(図5)。次に単位領域どうしの性格を比較するためにここでは単位領域の利用状況を建物規模と用途から捉えた(表1)。

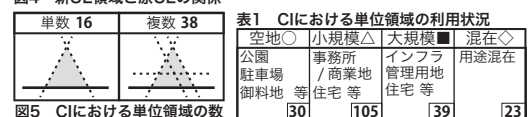
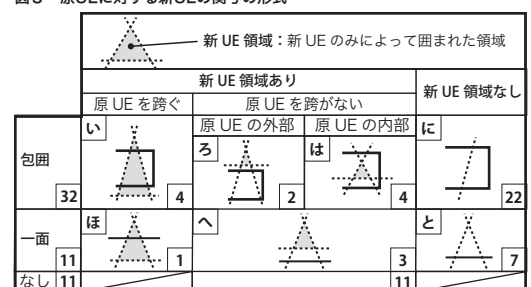
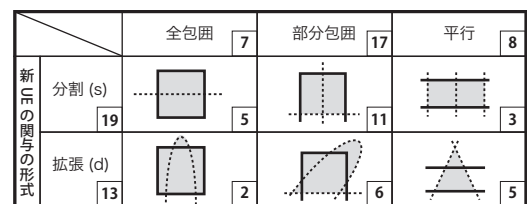


表1 CIにおける単位領域の利用状況			
空地○	小規模△	大規模■	混在◇
公園	事務所	インフラ	用途混在
駐車場	/商業地	管理用地	
御料地等	住宅等	住宅等	
30	105	39	23

4. CI の類型と東京の都市空間の領域的構造

4-1. CI の領域的性格 2 章で検討した原 UE による領域の確定性と 3 章で検討した新 UE の関与と新 UE による領域、UE の種類を合わせて検討することで CI の類型を見出した（表 2）。原 UE による領域の確定性が「全包围」のものは、原 UE による領域を分割するものが多く見られ、【A】として位置付けた。「部分包围」のものうち新 UE の関与の形式が「分割」のものは単位領域の数から【B-1】【B-2】として位置付けた。「拡張」のものは【B-3】とした。これは複数種類の新 UE が交錯し新 UE 領域を持つものが多い、複雑なタイプである。「平行」のものは、原 UE が崖線と河川のものが多く、中でも新 UE の関与の形式が「分割」のものを【C-1】、「拡張」のものを【C-2】と位置付けた。【C-1】は新 UE のが高架のみの比較的単純な空間が生じているのに対し、【C-2】は複数種類の新 UE を持つものがをものが多くみられ、それらが立体的に交錯することで複雑な空間が形成されていた。さらには新 UE 領域が CI 内部に入れ子のように存在するものもみられた。「一面」のものは新 UE 領域のないものを【D-1】、あるものを【D-2】と位置付けた。【D-2】における新 UE 領域は原 UE による分割がないものが多くみられた。原 UE による領域の確定性「なし」のものは新河川を含む【E-1】と交通インフラのみからなる【E-2】として位置付けた。【E-2】は駐車場などの特殊な利用のされ方をしているものが多くみられた。

4-2. CI の分布からみる東京の都市空間の領域的構造 CI の東京における分布から、複数の CI が同一の UE に沿って連鎖的に存在するものを CI 群と定義した（図 6）。南北崖線と東北本線沿いの CI 群 2 は崖線によって生じていた山手と下町の境界をより強調している。CI 群 3 は神田川と崖線、交通インフラが交錯してできたもので、東京を南北に強く分断している。

5. 結 東京 23 区とその周辺の CI を対象に、原 UE による領域の確定性と、単位領域の数から新 UE の関与を検討し、さらに新 UE による領域を合わせて CI を 9 つの類型に位置付けた。

注 1）本研究は既往研究「Revitalization of Tokyo City Island」（呉雪琪）に基づいたものである。先行研究では鉄道、高速道路、切り通し道路、河川を Urban Edge、互いに交差する複数の Urban Edge に囲まれた領域を City Island と定義していたが、本研究では原地形とインフラストラクチャーによって囲まれた 1km²未満の領域と、それら複数が一辺以上共有して隣接するものを 1 つのシティ・アイランドと定義している。

注 2）崖線、河川、高架、地上線路、切り通し道路、明治以降に作られた河川をアーバン・エッジと定義している。幅員 10m 未満の河川は Urban Edge としては扱わない。東京都と区市町村が平成 22 年に策定した「緑地保全の総合的方針」において明らかにされた崖線の位置情報を元に、高低差 8メートル以上、傾斜度 20°以上の斜面が線状に連続しているものを崖線と定義した。なお、地上を走る幹線道路はその周囲へのアクセスとなる性質が強いと考えられるため、対象としては扱わない。

注 3）単位領域における建築可能な範囲のうち、面積で 7割以上を占める用途を単位領域の用途としておられた。7割以上を占める用途がないものを混在として捉えた。

表2 CIの領域的性格

資料番号	資料名	原 UE 種類	新 UE 種類	新 UE の関与の形式	単位領域の数	単位領域の用途	類型
30	紀尾井	□ C,R	e	s	に 1	■事	【A】 No.35 目黒
51	御茶ノ水	□ C,R	o	s	に 1	■事	
15	妙見島	□ R	e	s	に 2	△工 2	【B-1】 No.43 板橋中台
49	千代田	□ C,R	o	s	に 7	○御 2 園 4 ■他	
35	目黒	□ C,R	e5,t	s	は 8	○園△住 4 ■住◇混 2	【B-2】 No.42 板橋若木
54	練馬	□ C,R	e2,o	d	い 4	○駐△住 3	
19	落合	□ C,R	e2,t	d	い 8	△住 5 ◇事混 2	【B-3】 No.48 馬込
33	六本木	□ C	e	s	に 1	■事	
43	板橋中台	□ C	e	s	に 1	■住	【C-1】 No.39 二子玉川
53	白子	□ C,R	e	s	に 1	△住	
47	池上	□ C,R	e	s	に 1	△住	【C-2】 No.40 田園調布
23	南青山	□ C	e2	s	に 2	△住混	
2	赤羽あ	□ C	e2	s	に 2	○駐△混	【D-1】 No.4 岸町
3	赤羽い	□ C	e2	s	に 2	△住 2	
42	板橋若木	□ C	e2	s	に 2	△住 2	【D-2】
31	赤坂	□ C,R	e3	s	に 2	○御△住	
28	箱崎	□ R	e2	s	に 2	■事 2	【E-1】
7	北千住	□ R	e6,t,r	s	は 10	△住 5 ■イ◇混 4	
41	板橋西台	□ C	e,t,o	d	に 5	△住 5	【E-2】 No.32 六本木あ
48	馬込	□ C	e,o	d	に 8	△住 8	
20	上高田	□ C,R	t	d	に 3	△住 2 混	凡例
52	和光	□ C,R	e3,o	d	に 9	○農 2 △住 5 ■イ	
46	参宮橋	□ C	e5,t	d	る 7	○駐△住 3 事混■住	用途
22	千駄ヶ谷	□ C	e3,t2	d	い 6	△住 2 事 2 ■事 2	住：住宅地 御：御料地 工：工場 イ：イン
38	成城	= C,R	e2	s	に 2	△住 2	建：大規模 ◇：大小
39	二子玉川	= C,R	e4	s	に 3	△住■◇混 2	駐：駐車場 社：寺社地 園：公園 フラ：官
34	麻布	= C,R,C	e3	s	は 4	○園△住混◇混	他：その他 事：事務所 混：混在 理用地
25	神田	= R,R	e8	d	い 7	■事 2 ◇事 3 混 2	○：空地
1	赤羽北	= C,R	e2,r	d	に 2	△混 2	
40	田園調布	= C,R	e2,t	d	に 5	○社園△住 3	
24	後楽園	= C,R	e3	d	る 3	△事 2 ■◇混	
36	大崎	= C,R,C	e11,t	d	は 22	○社 2 駐園△住 6 ■事 3 住 1 他 2 混◇住 2	
44	板橋志村	C	t	と	1	△住	
11	葛飾あ	R	e,t	と	1	△住	
14	江戸川	R	e,r	と	1	△住	
4	岸町	C	e2	と	2	△住混	
45	渋谷	C	e2,t	と	2	■事 2	
26	亀戸	R	e2,t	と	2	○園△住	
27	小松川	R	e3,r	と	3	○園 2 ■住	
6	根岸	C	e,t	へ	1	○駐	
50	竹橋	R	e3	へ	1	○駐	
10	加平	R	e4	ほ	3	○駐 2 △イ	
5	上中里	C	e5,t3	へ	8	△住 5 イ混◇混	
12	葛飾い		t,r		1	△住	
9	川口		e,r2		2	○園△住	
13	上一色		e3,r		2	○△住 2	
29	浜松町		e5,t,r6		12	○園 2 △事■事 8	
32	六本木あ		e3		1	○駐	
37	奥沢		t3		1	△住	
18	南池袋		e,t		1	◇混	
17	池袋		e,t,o		1	■イ	
21	歌舞伎町		e3,o		2	△イ 2	
16	板橋		e4,t2		3	△住■事◇住	
8	南千住		e3,t		3	△イ 2 混	

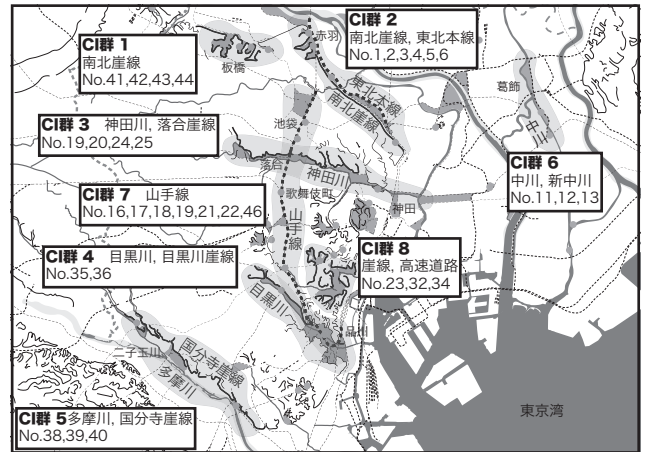


図5 CIの分布とCI群